

ミルボン

大阪公立大学と共同研究部門を開設
毛髪・頭皮・皮膚の基礎基盤研究強化を目指す



佐藤 社長

ミルボン(佐藤龍二社長)と大阪公立大学は7月1日、大阪公立大学大学院医学研究科に共同研究部門「薬物生理動態共同研究部門」を開設した。

高齡化・長寿化が進む現代社会において、生活者が生涯健康な状態で生活できることが期待できる。同部門では、肌や頭皮、毛髪の変化に対して、皮膚病態学・分子生物学の手法を用いた基礎研究をもとに、老化メカニズムや薬剤の応答性の研究を行う。また、同大学院医学研究科皮膚病態学講座(鶴田大輔教授)などの臨床講座と連携し、新しい皮膚炎症制御法や育毛・発毛法の有効性を検証するための臨床研究を行う。

抗加齡医学会総会
最優秀演題賞を受賞
資生堂 堀場 研究員

資生堂 堀場 研究員が、第22回日本抗加齡医学会総会(2022年6月17~19日)にて、「IL-34発現量の低下にともなうマクロファージのM1/M2バランスの乱れは露光部皮膚のインフラマエイジングを引き起こす」というテーマで発表し、老化に関する多分野にわたる研究の中から特に優れた研究発表に対して贈られる「最優秀演題賞」を受賞した。

慢性炎症のメカニズムを明らかにすることは高齡化を促進する「インフラマエイジング」は様々な疾患の原因となる可能性が示されており、そのメカニズムの解明が急がれている。

日光に暴露されている皮膚においては、慢性炎症が生じ、それによりシワやたるみが生じることが知られている。

研究では、免疫細胞の一種であるマクロファージのバランスの乱れが露光部皮膚においてインフラマエイジングを引き起こし、さらに表皮から供給されるIL-34の減少がインフラマエイジングの発生メカニズムに関与する可能性を初めて示した。



堀場 氏

研究科皮膚病態学講座と共同研究を開始し、様々な薬剤の応答性に関する研究を実施してきた。今回、大阪公立大学とミルボンとの産学連携をより一層強化し、協働で皮膚病態学・分子生物学的な基礎研究を推進させるため、共同研究部門の設置に至った。

頭皮や皮膚に関連するメカニズムの解明や有効性研究を協働で行っていくことで、髪や頭皮、肌への悩みのある人のQOL向上に貢献する。

設置期間は、2027年6月30日までの5年間で、大阪公立大学大学院アプローチによって明らかになることにも、有用性を検証していく。

動物実験代替モデルの作製、有効性・抗炎症成分の探索、候補成分のメカニズムの解明等を様々なアプローチによって明らかにするとともに、有用性を検証していく。

IL-34の減少によりマクロファージバランスが乱れ皮膚老化を促進

「暑い年は売上も上がる」。以前、取材でそう話してくれたのは、関西で化粧品店を営む店主である。気温が上がると、外出意欲とともに消費意欲も高まるものらしい。メーカーの新製品が揃う春秋シーズンはもとより、夏も肌の露出が増える。

日記

私の

H & B

北関東に位置する茨城県の海水浴場は今年16日、3年ぶりに海開きを迎えた。今年は6月後半から猛暑日を含む暑い日が続いて海開き前から海で遊ぶ子どもの姿が見られたが、海開きとなればその数は比

3度目のコロナ夏

による注意喚起のアナウンスで一気に夏らしさが増した。夏以外のシーズンは空きの無料駐車場も、この時期は有料1000円でもびっしりと埋まる。とはいえ、7月の茨城の到来である。1日あ

いった気持ちが上回るのだろうか。日中、海岸に歓喜の声が止むことはなかった。しかしながら、そんな3連休の光景に水を差すかのような第7波の到来である。1日あ

校に行っている方が多いと、休みの苦痛を感じてしまっているのだろうか。今年の夏も終わりが見えない不安を抱えて過ごすことになるであろう。

中央物産 提坂直弘氏が社長に就任



提坂 社長

中央物産は、6月23日開催の定時株主総会・取締役会で、常務取締役 M & S本部部長の提坂直弘氏が代表取締役社長に昇格する人事を決定した。社長就任後も提坂氏はM & S本部部長を継続する。前社長の原幸男氏は取締役副会長に就いた。役員人事/取締役副会長 原幸男(昇任)▽代表取締役社長 提坂直弘(新任)▽執行役員 松永景一(新任)▽執行役員 松川光宏(新任)▽執行役員 渡辺雅彦(新任)▽監査役 役川口和俊(新任)